

地域づくりWGの各分野ごとの対策・障壁・施策 (街区編)

地区・街区別のエネルギー供給・利用の将来像（イメージ）
・・・P.2

分野C：「街区」分野の対策の時間的特徴の分類・・・P.3

各対策の主な障壁と施策・・・・・・・・P.5

ロードマップ作成に当たり明確にしていきたい点
・・・・・・・・P.6

地区・街区別のエネルギー供給・利用の将来像(イメージ)

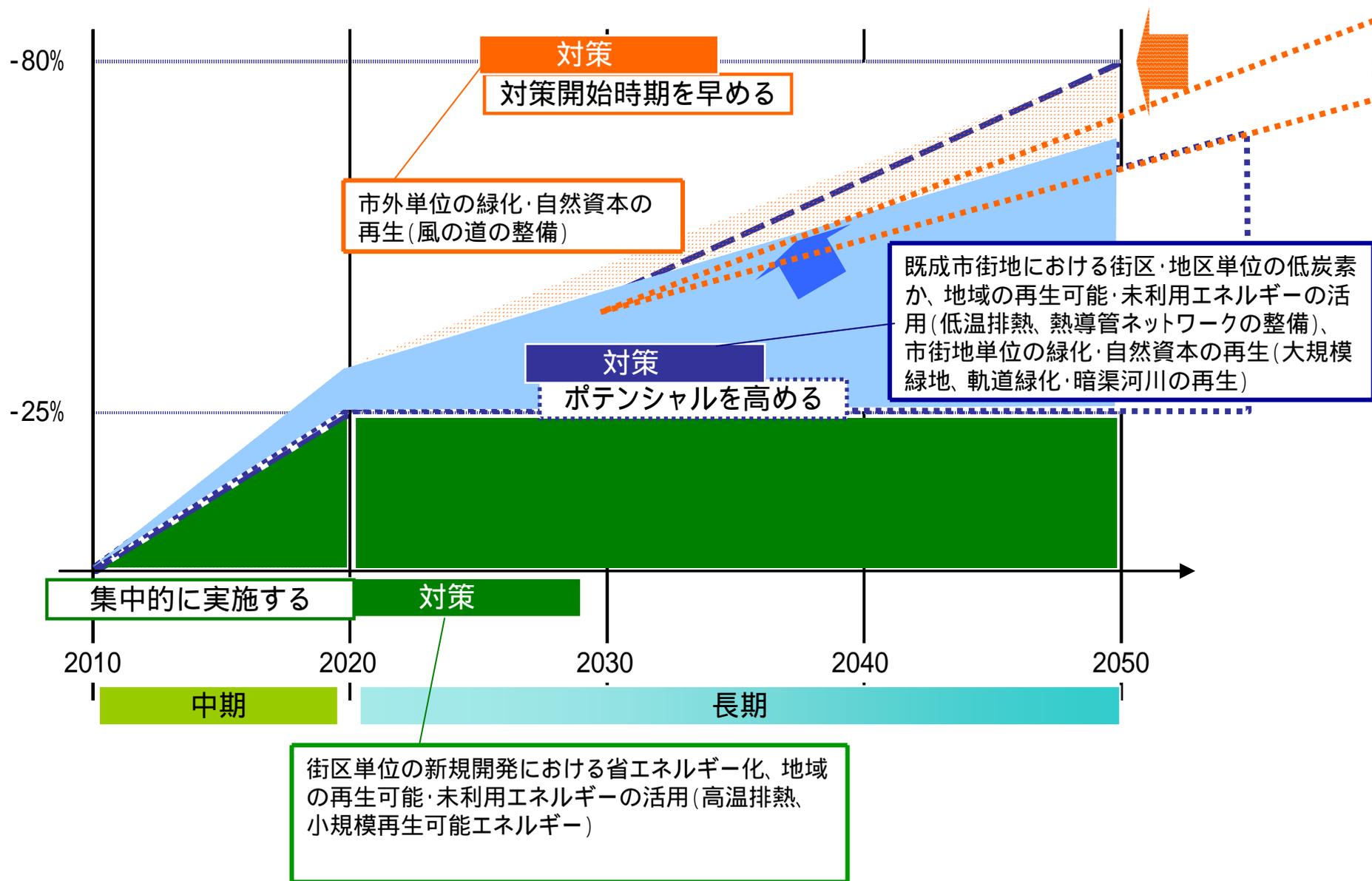
地区・街区の特徴によって、エネルギー供給・利用の形態は異なる。

	業務集積地		住宅地(中高層)		住宅地(低層)	
	新規(再開発)街区	既存街区	新規(再開発)街区	既存街区	新規(再開発)街区	既存街区
概要	土地利用と交通分野と連携し、都市集約拠点にインフラ整備等を集中実施。また、自動車利用の減少に伴う自動車関連スペース(道路・駐車場)を緑地、再生可能エネルギー施設等に転化。(再生可能エネルギーのための)電力の道、風の道、(暗渠河川再生による)水の道、(未利用エネルギー利用のための)熱の道等の新しい道が整備されている。					
エネルギーの自給	エネルギー需要密度が大きく、地区内再生エネと省エネ努力ではエネルギーの自給は難しい。農山村地域等から再生エネ電力を購入、あるいは燃料電池、バイオマス等で不足電力・熱を賄う。				余った電力を隣接地域に販売する、あるいは電気自動車用の電源に利用	
インフラ整備	地域内で電力融通するスマートグリッド。					
	熱導管ネットワーク	建物間導管	熱導管ネットワーク	建物間導管	小規模熱導管	
エネルギーの面的利用	熱供給事業型	建物間融通、集中プラント型	街区により業務集積地と一体的利用		小規模バイオマス熱供給など。	
未利用エネルギーの活用	工場・清掃工場等の排熱を活用。臨海部の工業地帯から熱導管が引かれている。				温泉排熱の活用等	
再生可能エネルギー	日射、緑地、河川、波、地熱、雪等の地域特性に応じた再生可能エネルギーが使われ尽くしている。					
	太陽光発電の効率アップのために建築物高度が統一。	個々の建て替え等に併せて集中的に導入。	太陽光発電の効率アップのために建築物高度が統一。	個々の建て替え等に併せて集中的に導入。	太陽光発電及び地中熱等の活用	
緑地・風の道	風の通り道を考慮して建築物・緑地を配置。集中的に緑地増。	大規模緑地に隣接し計画的に緑地を配置	風の通り道を考慮して建築物・緑地を配置。集中的に緑地増。	大規模緑地に隣接し計画的に緑地を配置	風の通り道を考慮して建築物・緑地を配置。集中的に緑地増。	大規模緑地に隣接し計画的に緑地を配置

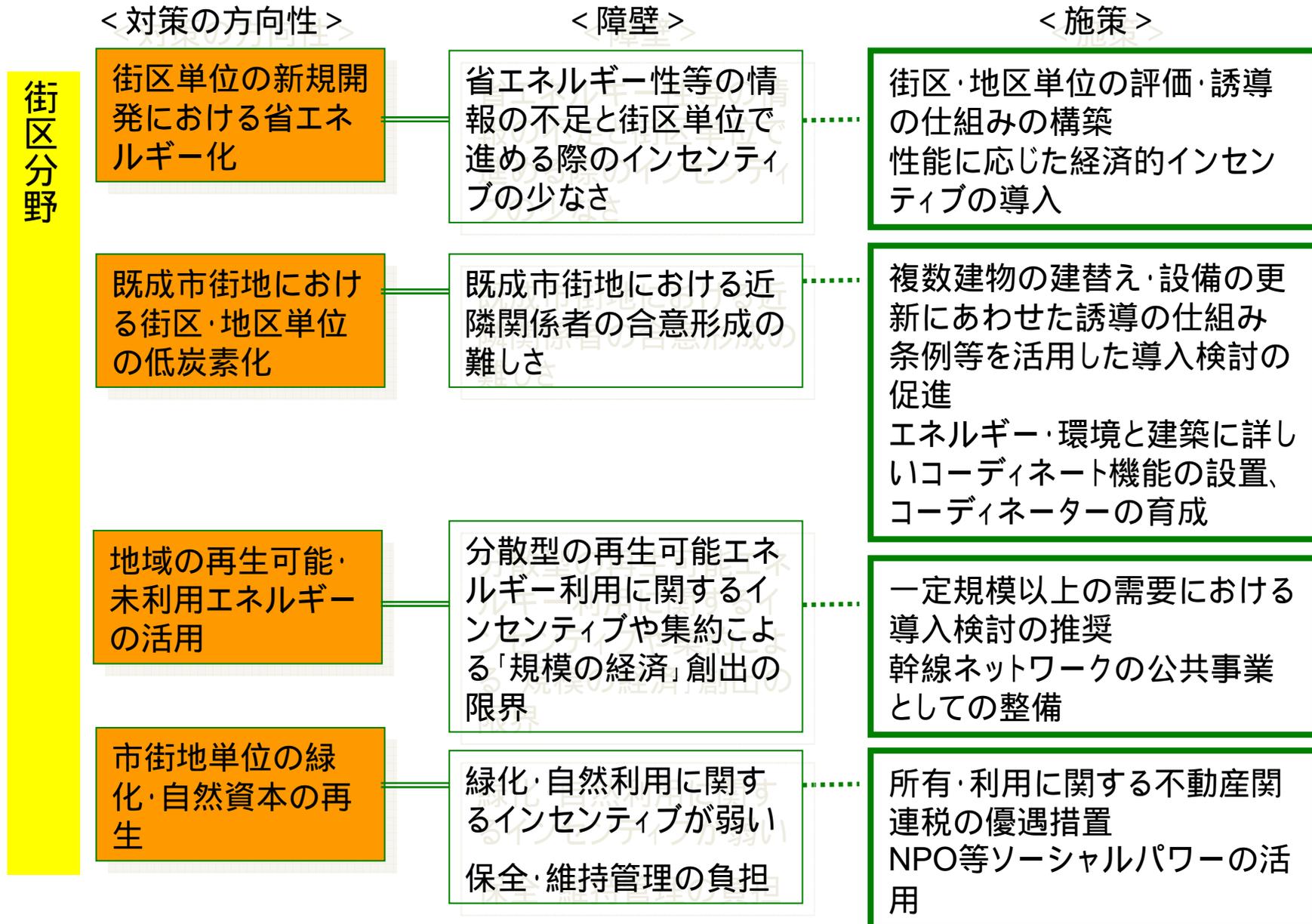
分野C：「街区」分野の対策の時間的特徴の分類

対策分類	内容	効果の時期		該当する対策
		効果発生	効果発揮	
対策	中期対策として集中的に実施すべきもの。	中期	中期	街区単位の新規開発における省エネルギー化 地域の再生可能・未利用エネルギーの活用(高温排熱、小規模再生可能エネルギー)
対策	効果が大きく期待できる対策は、現在の対策の進め方を加速させるような取り組みが必要。	中期	長期	既成市街地における街区・地区単位の低炭素化 地域の再生可能・未利用エネルギーの活用(低温排熱、熱導管ネットワークの整備) 市街地単位の緑化・自然資本の再生(大規模緑地、軌道緑化・暗渠河川の再生)
対策	効果を生み出すために、抜本的にその進め方を見直すか、効果発生・効果発揮時期をできる限り早めるために、早期の対策開始が必要。	長期	長期	市街地単位の緑化・自然資本の再生(風の道の整備)

効果の発生・発揮時期と削減目標に関するイメージ（分野C）



各対策に共通する障壁と施策 - 1



ロードマップ作成に当たり明確にしていきたい点

中期で実施すべき対策の優先度

- カーボンマイナス街区のような一体的な整備にあたってのインセンティブとしてどのようなものが考えられるか。また、そのインセンティブを設ける期間はどれくらいが適当か。
- コストが大きな障壁となっている対策について、コストを補う財源に制約がある場合、対策の優先度をどのように考えればよいのか。

効果の発生・発揮に時間を要する対策

- 効果発揮の短縮化を要する対策の施策として、都市計画との連携が考えられるが、具体的にどのような施策を、どのように進めていけばよいのか。
- 緑地等の整備については、CO2削減の効果が必ずしも大きくないが、どのような施策を行うのが効果的か。

複数対策の実施による効果の相殺と相乗

- 複数の対策が同時に実施されることで、削減効果が相殺される恐れのあるものはないか。あるいは、複数の対策を同時に実施する際に、削減効果が相乗効果を生み出すものはないか。